

標高500メートルの山のてっぺん。
世羅高原の畑から、
農薬、化学肥料を使わずに育てた採れたての野菜をお届けします。

遅い春を探す

“ホ～、ホケキョ”のウグイスの声、
空の高いところから聞こえるヒバリの鳴き声、
そして、春になると、キジの姿を畑でよく見かけます。

ヒヨドリは菜の花が大好きです。収穫用の菜の花は、ネットでお
おっているのですが、先日、ネットの中に入っているヒヨドリを
発見！つかまえようとしたのですが、バタバタとあばれるだけで
なく、葉っぱの下にじっと身をかくし、見のがしたすきに、うまく逃
げられてしまいました。

4月、うちの次男くんが社会人になり、会社の寮へ引っ越しをし
ます。そして、いつも仲よく遊んでいたお隣の少年たちも、住宅か
ら新しい家へとお引っ越し。…これは、ちょっと、寂しくなりそう
です。

虫たちの冬越し

ハウスの中で収穫中のハウレン草の葉の裏に産み付けられたテ
ントウムシの卵を見つけると、あ、今年もテントウムシがいてくれ
たって、ほっとします。

一方、ハウスの中で芽を出したばかりのラディッシュの双葉が、
かなり虫に食べられています。ニンジンの芽は、ひどく食べられて
しまったので、まき直しをしました。

白菜の外葉の間には、ヤサイゾウムシの幼虫やキスジノミノハ
ムシなどなどが、いーっぱいかかれています。暖かったこの冬は、
野菜だけでなく、虫たちの冬越しも楽だったのかもしれませんが。

〈4月の野菜〉

- 露地の畑では、菜の花やアサツキ、葉エシャロット、人参などが収穫中。
中旬頃からは、ニラやタラの芽などの収穫が始まる予定です。
- ハウスの中では、大根、葉タマネギ、葉ニンニク、ハウレン草、わさび菜、
リアスからし菜、ロケットなどが収穫中です。
ラディッシュ、カブ菜、小カブなどの収穫が始まります。

※ハウスの中の野菜には、アブラムシやヤサイゾウムシの幼虫がついてい
ることがあります。よく洗ってから使ってください。
50℃洗いがおすすめです。



〈タマネギ〉

こんなにきれいにそろって大きくなって
きているのは、久しぶり。
葉っぱもきれいです。
これは、冬の厳しい寒さがなかったおかげ。



〈スナップエンドウ〉

スナップエンドウも、順調です。
今年はソラマメも、無事、冬を越しました。
これも、冬の厳しい寒さがなかったおかげ
でしょうか。
発芽の良くなかったグリーンピースは、種を
まき直しました。



〈キャベツ〉

キャベツやレタスなどの苗が、出番待ち。
4月から、露地の畑への定植が始まります。

開業までの長い道のり

営農計画が最大の難関

通いで農業体験

入植候補地で農業体験をすることになり、農業普及センターでいろいろ相談をした結果、将来無農薬での栽培を目指していることもあり、無農薬でも栽培の手間が比較的少ない赤紫蘇を10アールほど作ってみることになりました。

春先に農業普及センターや町役場の方にも手伝っていただき、苗の定植をしました。収穫の終わる秋まで、毎週1回～2回広島市から世羅町まで通いましたが、散水設備もなく水やりは天候任せでした。収穫は朝早いうちに、お茶の収穫機を使って上部を刈り取ります。刈り取った葉は、大きなざるの上で葉についた虫やごみ、太い茎などを振り落として袋に詰め、12時までに加工場に運搬しました。収穫は毎週行うので、週一回、午前中に休暇を取って通いました。



最初のトラクタ。マッセイファーガソン MF135(2駆)、イギリス勢です。

難関、営農計画

農業体験と並行して、何をどのようにどのくらい作って、どう販売するのか、設備はどう整えるのかといった計画(営農計画といいます)を立てます。これが認められないと農地の取得ができません。普及センターで見せて頂いた営農計画は、ネギ農家とかキャベツ農家などのように、数種類の作物で経営するものばかりで、少量多品種を1年を通じて栽培し、販売も自分で手掛けるといったものではありませんでした。そこで、おもな作物20種類くらいの栽培情報(種まき・収穫の時期、管理にかかる手間、販売単価など)をもとに、一年を通じて、労働力の変化が少なく、畑の回転に無理がない計画を考えることになりましたが、普及センターや町役場、農業委員会の承認をもらうまでに一年近くかかりました。

1年間の農業研修

農地の取得は出来、栽培計画は出来たものの、実際の一年を通じての作業の段取りなどはまだわからないことだらけです。そこで無農薬栽培をしている農家で一年間研修させてもらいました。とはいえ作業が多いのは春から秋にかけてで、冬の間はハウスを建てたり、畑の整備をすることになりました。



最初の1本

まずは、自力でハウス建て

春にはハウスの中に種を蒔くために、冬の間は1棟目のハウスを完成させるべく2人でハウス建てにとりかかりました。ハウスの形に曲げてあるパイプを50cm間隔で、深さ50cmに埋め込んでいきます。両側から伸びたパイプを、中央でつないだら、アーチの完成です。この接合部の高さは4mです。このアーチを101組完成させると、1棟(50m)のハウスの完成も間近です。初めてでのこともあり、1棟目のハウスができるまで約3か月かかりました。残りの2棟は、やり方がわかったこともあり、3か月で建てることができました。



やっと1棟分の骨組みが完成。この後、シートを張って完成です。

初めての種まきから22年

完成したハウスの中に、ほうれん草・小松菜・チンゲンサイなどの種を蒔きました。昼間は暑くなりすぎないようにハウスのビニールを開けたり閉めたり、気を使います。毎朝畑へ行くたびに、種まきをしたところにしゃがんでは、「芽が出ない、芽が出ない…」のめいちゃん状態。小さな芽が出かけているのを見つけるとほっとしました。

そんな、初めての種まきから、この春で丸22年が経ち、小さかった二人の子供たちも社会人となりました。長いような22年ですが、たった22回の季節を経験しただけとも言えます。毎年気候が違い、予定通りにはいかないことが多いですが、これからも春夏秋冬その時期に採れるおいしい野菜を、作っていきたいと思います。



完成したハウスの中で、種まき。